



## 「環境と経済の両立」を目指して

トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長

### 渡辺 捷昭

#### 1. はじめに

現在、世界の自動車保有はおよそ9億台と言われ、直近の20年を5年おきに区切って見ていきますと、5年ではほぼ1億台ずつ増加しております。今後も途上国を中心に増加が見込まれ、2010年には10億台を突破し、2020年には15億台に達するという予測があります。地球環境に与えるインパクトもそれだけ大きなものになると認識しております。

私どもといたしましても、「地球温暖化問題とエネルギー問題への対応なくして、自動車の未来はない」という危機意識を持って、地球と共生できるクルマづくりに取り組んでまいります。

さて、トヨタは創業以来、「自動車を通じて豊かな社会づくりに貢献する」ことを基本理念として、事業を営んでまいりました。「豊かな社会づくりへの貢献」とは、現在の情勢に照らして言えば、「地球の持続可能な発展への貢献」であります。「地球の持続可能な発展」へのため、鍵を握るのは技術革新です。また、技術を生み出すのも、活用するのも人間です。

トヨタは、「人」と「技術」の力を結集することで、環境保全と経済成長の両立を図りうるものと確信しております。そして「クオリティ・オブ・ライフ」を享受しながらCO<sub>2</sub>低減も実現する「豊かな低炭素社会」に向けて、全社を挙げて取り組んでおります。

#### 2. 地球の持続可能な発展への取り組み

具体的には、「3つのサステナビリティ」をキーワードに、「研究開発」「モノづくり」「社会貢献活動」の分野で、地球温暖化問題とエネルギー問題を中心とした活動を強化し、「環境と経済」のバランスある発展（サステナビリティ）を実現してまいります。

以下では、それぞれの内容について、簡単にご説明いたします。

##### ①研究開発

最初に研究開発におきましては、地球と共生できるクルマ社会、すなわち「サステナブル・モビリティ」の実現に向け、チャレンジを続けております。「ゼロナイズ&マキシマイズ」というビジョンを掲げ、自動車が人や環境に与えるネガティブな側面を最小化し、自動車に求められる利便性や快適さ、楽しさや感動といったポジティブな側面を最大化していくことを目指しております。

まず、環境・エネルギーの面では、「排出ガスのクリーン化」「CO<sub>2</sub>の低減」「燃費の向上」の全てに貢献できるハイブリッドシステムを当社のコア技術と位置付け、普及に努めてまいりました。

その結果、本年5月にハイブリッド車の全世界での累計販売台数は150万台に達し、約700万トンのCO<sub>2</sub>排出量の抑制に寄与することができたと考えております。今後は、2010年代のできるだけ早い時期に、年間100万台

販売を達成し、2020年代には、ハイブリッド技術の全モデル展開を目指し、更なる普及に努めてまいります。

次に、エネルギー多様化への対応については、化石燃料は限りある資源であることから、代替エネルギーの対応が非常に重要な課題となっております。トヨタとしては、電気、バイオ、水素が有力な候補になると考えております。

特に、電気の利用に関しては、プラグインハイブリッド車（以下、PHV）と電気自動車（以下、EV）があげられます。

PHVにつきましては、近距離は電気のみで走行し、長距離は通常のハイブリッド車として走行できるため、現時点では最も現実的なアプローチであると考えております。また、近距離通勤車としてEVの研究開発も進めております。電気を利用する上で、重要な鍵を握るのは電池技術にあります。

少し古い話になりますが、1925年に豊田佐吉は100万円の懸賞金をかけて蓄電池開発を奨励いたしました。佐吉が蓄電池の開発を奨励したのは、石油はいつまでも使い続けることができる物ではなく、それを調整するのは蓄電池だと考えたからです。

80年以上経った現在では、ニッケル水素電池を搭載したハイブリッド車が普及しております。

リチウムイオン電池につきましても、開発を加速し、今後は搭載する車両を考慮した上で、電池を使い分けていきたいと考えております。

また、次世代電池の開発に向けては体制を強化し、本年より電池研究部を新設し、革新的な次世代電池の実現を目指し、取り組んでまいります。

## ②モノづくり

次に、モノづくりについてですが、トヨタのモノづくりの基本は「ムダ」「ムラ」「ムリ」を徹底的に排除し、最高の品質と効率を実現する事です。特に「ムダ」の排除は、エネルギー効率を高め、CO<sub>2</sub>を低減することそのものといえ、モノづくりの実践の場である工場において、積極的に取り組んでまいりました。

また、昨年より「自然を活用し、自然と調和する工場づくり」を目指し、「サステナブル・プラント活動」を推進しております。

具体的には、「太陽光や風力等、再生可能エネルギーの活用によるCO<sub>2</sub>削減」「工場の森作りを通じた地域貢献・生態系保護」「革新技術の導入とカイゼンによる



トヨタプラグインハイブリッドと太陽光発電

飛躍的な環境パフォーマンスの向上」という3つの観点を踏まえた工場づくり、工場運営を目指すもので、まず日米欧亜におけるモデルプラントから初め、全世界全ての工場に展開し、取り組んでまいります。CO<sub>2</sub>排出（売上高当たり）の低減実績といたしましては、2007年度実績（トヨタの国内工場）で、1990年比55%減を達成し、2010年度の目標を当社目標の35%減から60%減（いずれも1990年比）に新設定いたしました。

## ③社会貢献活動

最後に、社会貢献活動についてですが、私どもは事業活動以外の面でも「社会全体がサステナブルな構造になる」ためのお手伝いをしていきたいと考えております。

環境保全の観点より、砂漠化や森林荒廃が深刻な中国やフィリピンで、地域に根ざした植林活動に取り組むなど、「森作り」「人づくり」「地域づくり」を柱とした活動を全世界で展開しております。

## 3. さいごに

トヨタが創業以来受け継いできた経営上の信念・価値観を「トヨタウェイ」と呼んでおりますが、その柱は「知恵と改善」「人間性尊重」の2つであります。夢の実現に向けて常に進化、革新を追求し、知恵を絞り続けること、あらゆるステークホルダーを尊重し、誠実に相互理解に努め、互いの責任を果たすことをトヨタは大切にまいりました。

地球温暖化問題を始め、人類が直面している諸課題は、地球全体、社会全体の協力が必要な複雑かつ困難なものだと思います。トヨタは「人」と「技術」の力を結集し、「環境と経済の両立」の実現に貢献したいと考えております。

皆様方には、今後とも、厳しい目で一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。